

第 2 回浜田市立学校統合計画審議会議事録

日 時：平成 30 年 7 月 5 日（木） 18：03～19：53

場 所：浜田市役所 4 階講堂 AB

議事

- 1 会長あいさつ
- 2 資料説明（資料 1～資料 5）
- 3 協議事項
- 4 その他

1 会長あいさつ

事務局

ただいまより、本年度第 2 回の浜田市立学校統合計画審議会を開催させていただく。

現時点の出席者が 10 人ということで、半数の 7 名以上ということで、この会議は成立していることを報告させていただく。

それでは会長にごあいさついただき、引き続き、議事進行をよろしく願います。

会 長

台風が心配されていたが、被害もなく一安心したところである。ただ、まだ前線の影響で非常に強い雨が続けている。気を許せない状況にあるが、今日はそういった中で皆様にお出掛けいただきありがとうございます。

事務局からも冒頭にあいさつがあつたが、平成 30 年度第 2 回目の学校統合審議会ということで皆様にお出掛けいただいた。だんだん大詰めを迎えるが、今日も委員方からご意見をいただくわけであるが、少しずつ絞っていかなければならない。前段、特にお願いしていることではあるが、今日から委員方がどのような考えでおられるか順番にお聞きする。そういう中で全体の協議を進め、まとめていきたいと思っているので、この審議会がスムーズに進行できる様、皆様のご協力をいただきたい。よろしく願います。

2 資料説明（資料 1～資料 5）

会 長

事務局から資料の説明をお願いする。

事務局

めくっていただいて資料一覧、資料 1、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5 と付けている。説明としては資料 1 と資料 2-1、2-2 の説明をさせていただきたいと思っている。資料 3、4、5 については、以

前お配りした資料を改めてお配りしたものであるので、また、協議の際にご覧いただきたい。

まず、資料1について。平成30年4月1日の年齢別、学校別の子ども数である。校区外は無視した形になる。そういった学校別で、今回協議していただく浜田地区の関係のところの子ども数を一覧表にしている。6歳から11歳までのところは、現在、小学校に通っている子どもが太枠で囲ってある。0歳から5歳のところの今後小学校に入る子ども数は、現在住民票がある人ということが前提で書いているものである。

それから中学校については12歳、13歳、14歳のところが、現在中学校に通っている子ども。今後0歳から11歳の子どもが、転出等がない前提での数である。実際には、学校全体の数がどのようになるかというところで、(2)の年度別児童数、生徒数という表を見ていただければと思う。まず、原井小学校については、今、6歳から11歳の子どもが214人通っている。今後、1年ごとに5歳の子が入り、4歳の子が入りということでその年度ごとの表を人数で見ただいて、今0歳の子どもが入った時に、今の6年生の子どもまでが全部入れ替わる状態の年度になるが、その時に、原井小学校が現在の214人から148人になるということで、66人子どもの数が減る。この様に表を見ていただきたいと思う。

その次の雲雀丘小学校については、現在59人のところが119人になるという様な、今の住民票の数で言えばそういう状況であるが、ただ、雲雀丘小学校については保護者の方が県の職員であるとか学校の先生であるとか、転勤による子どもの異動が多い学校であり、これまでも同じ様な形であったが、小学校に上がるまでのところの数は一緒に来ているが、小学校に上がる段階で単身赴任になってしまうということが多々ある地区である。小さな子ども数は多いが、これまでと同様であれば、同じ様な人数の推移であると今事務局では思っている。

それから松原小学校以降については、大きな変動はないと思っているが、6年後増加になるところが、松原小学校で15人、三階小学校で31人である。他の学校は全て減っていくという様な形で、平成30年度1,925人いる子どもが平成36年度には1,865人で、トータルで60人減るということになる。年度別に見た時に、今1,925人であるが、平成32年度、33年度については1,944人と1,932人ということで、今よりも若干増える年もあるが、トータルで言えば、

最終的に6年後には60人減ってしまうということである。

ただ、校区外とかそういったものがこれとは別に存在するのが現実であると思うので、これについては住民票の住所地というところで分類をしている。子どもの数は変わらないかもしれないが、学校を変わる子どもはいるかもしれないといった見方をさせていただければと思う。

それから、中学校については、第四中学校が37人から38人と1人増であるが、他の中学校については第一中学校が31人減、第二中学校が4人減、第三中学校が9人減、浜田東中学校が25人減ということで、1,045人から977人の68人減という状況が、今後6年後には起こる。昨年度の会議の時に、10年間の推計というものを提示したが、これは最新の状況の後に住民票での数字を拾ったところであるので報告しておく。

それから資料2-1。カラーでお配りしている。これについては、事務局では統合の計画の大前提として、同じ小学校の子どもは同じ中学校に行くという様に考えている。左側が町別に見たときに、浅井4、5、6町内以外のところが石見小学校へ行っており、浅井4、5、6町内は松原小学校へ行っている。米印が付いている箇所が2か所ある。同じ町の中でも、JRの線路を挟んで北側が松原小学校、南側が石見小学校と別れている状況がある。それから、右側の表は小学校別に見たときのもので、松原小学校の黄色いところの内、外ノ浦、松原、殿町が第二中学校へ行っている。それからその下の、田町、琵琶町、朝日町、牛市町、それから先ほど言った浅井4、5、6町内については第一中学校へ通っているという様な、同じ学校でも分かれるところがある。それから、原井小学校の紺屋町については、相当昔からこういう流れであるが、原井小学校から第一中学校に行っているという状況がある。この二重丸と黒丸のところは同じ小学校から違う中学校に進学しているというところの表である。

それ以外については、同じ小学校は同じ中学校に上がっているというところで、事務局は問題がないと思っている。

それから次の資料2-2。先ほどの原井小学校、松原小学校のところであるが、原井小学校から第一中学校に行っている、行くであろう数も含めた紺屋町の子どもは、0歳児から11歳児までがそれぞれ、0から4人。第二中学校に通っている子どもは毎年20人から30人いるということである。

それから松原小学校から第一中学校、もしくは第二中学校へ上が

る子どもについては、年度によって違うが、半々ぐらいが、それぞれ第一中学校と第二中学校へ行っているという状況がある。この基礎数値も踏まえて、これからの議論の参考にしていただければと思う。

それから資料 3-1 については、過去に配らせてもらった資料であるが、小学校間の距離である。統合を想定した時に移動距離がどれくらい変わってくるのかということもあるので、その参考資料である。

それから資料 3-2 については、中学校間の距離を示したものである。これについてもこれまでに示している。

それから資料 4 については、学校の老朽化等も含めた学校評価の結果の一覧表である。これについてはC評価が低い評価で、黄色くしてある。それから、真ん中に経過年があるが、赤いところが 40 年以上経過した構造物であるということは、これまでも説明させてもらっている。前回の最後のところで、会長から 6 校分の資料をまとめてほしいという話があったが、写真を掲載するのは難しく、この資料で施設の老朽化は基本的に理解していただけるのではないかと、省略させていただいた状況である。

資料 5 については、前回の最後のところで、今後の参考にするというところで事務局の考え方を示してほしいということがあり、小学校については雲雀丘小学校、美川小学校、石見小学校、それから、中学校については第二中学校、第四中学校をそれぞれ (1) から (3) まで、こういう考え方で協議の参考にしていただければと示したものである。これはまた、今後各学校の協議の際に補足的にこういう状況であると説明させていただこうと思っている。

会 長

事務局より、平成 30 年 4 月 1 日の年齢別の学校別の子どもの状況や、校区の状況について、資料 1 から 5 にわたっての説明をいただいたところである。これからこれらの内容について審議を行いたいと思う。資料 1 から 2 について何か質問はあるか。

委員方
会 長

特になし。

質疑がない様であるので、質疑応答を終了させていただく。

3 協議事項

会 長

繰り返しになるが、前回の審議会において、6 つの学校に絞って協議することを決定いただいた。これから本日も、次回の 2 回で協議したいと思うが、活発なご意見をいただきたく、願います。夜

の会合であるので本日の審議会は、概ね 20 時終了予定と考えているのでご理解の上、ご意見をいただきたい。

事務局

では最初に、雲雀丘小学校について、委員一人ひとりの意見を伺いたいと思う。事務局から説明しておくことがあれば願います。

改めて資料 5 をご覧いただきたい。雲雀丘小学校については、廃校として原井小学校へ編入するという考え方、それから、現地かどうかは別として、今の老朽化している状況を考えた時には、今の場所も含めて単独の建替えをするという 2 つのパターンの考え方であると思っている。

会 長

事務局から資料 5 の補足があった。これから委員方一人ひとりにお考えいただき、その後全体で協議する。それでは順番に意見をお願いします。

委 員

まず、この資料 5 の雲雀丘小学校が老朽化して危険校舎になるということだが、子どもは 59 人しかいないということである。私は学校の適正規模といったらどのくらいであろうかといつも考える。大きければ大きいほど良いというものでもない。というのも、1 人にかかる教育的な時間が、大人数であると少なくなる。最近是个に応じた少人数指導という様なことで、昔の講義形式で一斉指導する方式から少し変わっていると思う。個々に応じてきめ細かな指導が必要になると思う。それから、先ほども言ったが、大きければ大きいほどいいというわけではない。これは教員にとってもそうであり、40 人のクラスが公立の小学校でもあるが、一人ひとりに声かけしようと思っても大変である。非常に負担が大きい。そういったことから適正規模はどのくらいなのかと思い、いつも考えるが、私が思う中では小学校は 1 学級 25 人の 2 クラスで、1 校 300 人くらいが適当であるかと思う。そういう点で考えると、雲雀丘小学校は少ないということがあるが、考え方によっては、より細かな指導ができていくということがあるのではと思う。

委 員

老朽化が問題になっているが、すぐにとということではないので、今後子どもの推移をみて検討しても良いのではないか。

素人的な考え方で申し訳ない。雲雀丘小学校の見学に行かせていただき、私の中では早急にという気持ちがある。規模的なことを言うと、極小規模でないにしても小規模校に入るかと思う。ただ、私の個人的な考え方であるが、小学校というのはある程度小規模でも良いかと思う。中学校になると団体の活動が入ってくるので、ある程度の規模が必要であると思う。

先ほども言われたが、教育の質というか、やり方が変わってきたというのは私も感じていて、先般、地元の岡見小学校の授業参観に行ってきた。明らかにわが子の時代、30年くらい前の教育とは違うと感じた。というのが、一方的に先生から教わるということではなく、子どもたちの考えを引き出す、自分たちで考える力を養うという様な教育が変わってきた中で、あまり大きな規模というのはふさわしくないのではという気がしている。ただ、雲雀丘小学校については、今、2案あるが、単独の建て替えということになると、経費の面もあるが、場所を変えるということになるとまた色々な問題があると思うが、今現在の場所にするとう面積的にどうかと感じる。

原井小学校への編入ということになると、原井小学校の規模はあまり大きくない。資料1(2)の年度別児童数、生徒数を見ても、そんなに大きくない。先ほど言われた様に、300人くらいで納まる様な規模になると想定されることから、個人としては廃校として、原井小学校への編入という形がいいのではと思う。校舎を見ると、早急にという様な気持ちがしている。

委員

私も、前回の話で6校に絞るという中で、大前提は雲雀丘小学校が1番頭に来るという形で良いのではと思う。どうしても、小規模校にもなるし、統合ありきということではないが、昨年、雲雀丘小学校を見ることはできなかったが、偶然用事があり伺わせてもらった。その時に、不便なところがたくさんあるという話は聞いた。子どもたちも、地元の方が少ないということも聞いているし、学校の授業内容については問題なく行っておられると聞いている。今、適正配置、適正規模、私は雲雀丘小学校が建て替えについてはお金もかかるし、場所についても今の場所では厳しいと思う。統合ありきではないが、原井小学校へ編入の方が選択的には良いのかと感じている。

先ほど言われたように、雲雀丘小学校の子どもの数は平成36年には増えるということであるが、転勤等のこともあるし、実際にこの人数が当てはまるということにもならないとは思いますが、おそらく今の配置と通学路の見直しというのも入ってくるので、これも検討してみないと分からないと思っている。基本的に私の意見は、残してあげることも大事であると思うが、建物の現状を含めても、統合していく方向が良いのではと思う。

委員

金額的なところが1億円と、18億円というところで大きく違うのだと思う。距離が、雲雀丘小学校と原井小学校では2.2キロメー

トルという割と近い学校であるのだと分かった。バスも使わず、子どもの足で登校できるのではないかと認識した。実際に雲雀丘小学校へ行って見て、トイレや体育館の空調、理科の道具など、色々なところで不便が目に見えた。建替えよりも統合であるかと私も思うが、雲雀丘小学校の入り口のところに、礎の様なものがあり、地域の方で建てた様なものがあつた。地域で支えられて今まで来たというのがとても良く分かった。もし、この地域からこの学校がなくなると周りの人はどの様に感じるかと考えると、心が痛い思いがする。しかし、色々なことを長い目で考えると、原井小学校に統合が良いのではという気持ちである。

委員

この資料を見ると、雲雀丘小学校と原井小学校の通学距離は2.2キロメートルで、長浜小学校が2.8キロメートルである。長浜小学校の方が距離的には長いかも知れないが、この2.2キロメートルというのは、子どもが歩いて、そんなに大変な距離ではないと思うため、原井小学校に統合されても良いのではというのが私の意見である。

委員

私の意見は雲雀丘小学校に関しては、原井小学校への距離が2.2キロメートルということと、現在の時点で考えたときに、雲雀丘小学校は第二中学校区であるので、原井小学校から第二中学校に上がるお子さんもおられるし、先々のことを考えるとやはり、原井小学校へ編入という形が良いのではと思う。また、先々の推移を見ても、段々と子どもの数が減っているのので、少人数であれば教員の目が行き届くという面もあるが、やはり小学校の勉強というのは、社会の見学とかたくさん授業がある。社会性を学ぶ場としてはできれば多くの方と関わりを持った方が、学習に関してもスポーツに関しても視野が広がってくると思う。であるので、今のこの人数であるとスポーツをするにも人数が足りないということもあり、これから先々の未来を考えると、ある程度の人数がいる小学校に編入する形の方が良いと思う。

委員

自分の子どももまだ幼稚園児であり、専門的なことは全く分からず素人である。雲雀丘小学校にも行ったことがないが、資料から、今の人数が59人で、6年後増えるかもしれないということになっている。自分の子どもも今美川幼稚園に通っており、人数はとても少ないが、少ないなりの良さもある。団結力も強いし、仲間に対する思いやりもとてもある。先生にも手厚く見てもらえるという本当に良い面もあるが、将来的なことを考えたら、費用の面でも1億円と

18 億円は大きく違うし、やはり原井小学校へ編入した方が良いのかと思う。

委員

統合ばかりを望むのではないが、この雲雀丘小学校に関しては廃校にして、原井小学校に統合した方が良いと思う。大体に、雲雀丘小学校は地元の子供が少なく、転勤してきた公務員のお子さんが多いと聞いている。確かに地域の方が小学校の子供がいなくなるとさみしい、地域の活性化が乏しくなるということをよく言われる。上府小学校が国府小学校に統合されたときにも、上府地区の方がかなり言われていた。確かにそういった面はあると思う。小学校の子供がいなくなると地域の人さみしい。おかげで今、国府小学校区の通学路はたくさんの子供たちが通るので賑やかである。ただ、雲雀丘小学校の地域性を考えると、あそこに単独で建て替えるということはなしにしていきたい。見学に行った時に、通学路を歩いている時にも、よくこの様なところに学校を作ったものだと感じた。それから、かなり学校が傷んでいる。廃校にして、統合していきたいと思っている。

委員

現実問題として、雲雀丘小学校はかなり老朽化している。ではすぐに建て替えられるかといったら、おそらく全部をすると 100 億円近い事業費になる。浜田市の年間予算の 4 分の 1、ないしは 3 分の 1 くらいであるから、これを全部やるのは実際に無理であると思う。老朽化という現状から考えると、やはり子供たちが危ないような状況で教育を受けるのであれば、原井小学校への編入がベターであると私も思う。

委員

私個人としての意見は、他の委員が言われた様に、まずは老朽化と適正規模。やはり、今は少人数の指導が大事であるが、経費や財政的なことも含めて、私も雲雀丘小学校は廃校にして原井小学校への編入が、望ましいと思っている。

会長

ありがとうございました。

特に、雲雀丘小学校が現状の子供の数は 59 人。また、老朽化している。委員方の意見をいただいて、内容を十分精査いただいた。その様なことで、雲雀丘小学校は廃校として原井小学校に編入、あるいは単独の建て替えの場合ということで、それぞれ意見をいただいた。

委員

私は、存続、それから統合にこだわりはないが、先ほど、原井小学校と雲雀丘小学校は距離が 2.2 キロメートルしかないから、歩いて通えるという様な話があったが、この雲雀丘小学校というのは、

雲雀丘小学校区の中で東に寄ったところにある。原井小学校へ徒歩で通うことになる。子どもがいるか分からないが、原井町は山の中もある。子どもがいたときに、雲雀丘小学校に2キロメートルも3キロメートルもあるという様なところもある。そこから原井小学校へ行くということになると、4キロメートルも5キロメートルも歩くことになる。それから今、笠柄町の警察官舎からいうと雲雀丘小学校は1.5キロメートルくらいはあると思う。従ってこれに足すと4キロメートル近くになる。従って、2.2キロメートルであるから通えるといった安易には考えられないということがある。

委員

今の2.2キロメートルのことについて、当然、雲雀丘小学校区の中でも4キロメートルを超えると、スクールバスも考えられる。学年の児童数も変動すると思うので、そこも考えていかなければならない。先ほど笠柄地区の件でも話したが、笠柄地区の中には長浜小学校を選ぶ子どももいると思う。そういった場合に、全員が原井小学校に行くわけでなくなるので、そこをどの様に説明するのも課題になってくると思う。

上府小学校が統合された時にも、ぎりぎり4キロメートルあるかないかのところでも、スクールバスを出されているが、あそこも登下校するときに1年生から3年生まではスクールバスであるが、4年生から6年生は徒歩である。上府でも奥の子どもは4キロメートルあるいは5キロメートル近いところから歩いてくる子どもも出てくるわけである。その辺のところを加味した上で、皆様に納得していただける様、他の委員も言われたが、そこも含めて課題として話をしていかなければならない。

事務局

確かに先ほどの資料は、学校間の距離として示しているものである。今日は付けていないが、第2回目の会議のときに配っている資料がある。最近では石見小学校に後野小学校が行ったとか、三階小学校に佐野小学校が行ったという様な案件がある。当然、距離的には相当な距離があるので、そういった時にはスクールバスが出ている。スクールバスについては、今後、方向性が決まってからまた検討することになると思っている。

委員

今は原井小学校への編入が前提としてあるが、原井小学校に統合された時に今の59人の児童が、受け入れ先の原井小学校に学童の場所が足りない。その場合に、さらに学童に入る子どもたちが増えるという考え方もある。今は6年生まで受け入れされるということであるので、そうなった場合に、50人と仮定して可能であるかどうか

かという問題がある。それから、クラスの増減でいうと空いたクラスがあれば学童にも使えると思うが、クラスを増やすということが可能であるかどうかということ。石見小学校に至っても、今学童のクラスが足りないということで、外に設置されているというところもある。まだこれから増えてくるということもある。そういったことを考えると、それも含めて考えていかなければならないと思う。原井小学校も人数的には減っていくというデータが出ているが、それもまだ分からない。今後の雲雀丘小学校を入れた場合の想定と、笠柄地区の子どもが長浜小学校に行くということも想定して考えていかなければならない。

会 長

委員方からの意見に対して、すでに全体の協議に入っているが、全体的に見れば、雲雀丘小学校は廃校にして編入することが1つということであるが、編入するといってもスクールバスを利用する方法もある。こういった1つのまとめを出すためには色々問題も出てくると思うが、意見として出していただきたい。

事務局

補足であるが、今雲雀丘小学校児童の59人の中で、熱田1-3町内の辺りから、校区外で通っている子どもが10人くらいいるので、もし雲雀丘小学校がなくなった場合には、熱田1-3町内の子どもたちが長浜小学校へ行くのか、今までどおり校区外で原井小学校へ行くのか、そこはどういった選択をされるか分からない。

委 員

それではまた困るのではないか。同じ町内から、第三中学校に行く子、第二中学校へ行く子が分かれる。

事務局

あくまで、今も本来、熱田1-3町内は長浜校区になっているが、校区外として要望に応じているのが現実である。その辺りは今後どのように出てくるかは分からない。

委 員

保護者の希望によって校区外に通っているのか。今頃は昔よりも柔軟に対応されていると聞いている。

事務局

指定された学校があるので、誰でも許可していると児童がいなくなってしまう小学校があってはいけないので、基本としては指定された学校へ行くようにということがある。ただ、例えば、最終学年で引っ越しをするであるとか、学期の途中で引っ越しをするので学期の間は行かせてほしいとか、どうしても希望する部活動がなかったりであるとか、それから保護者の方の勤務の関係で送迎の都合であるとかそういった事情で、やむを得ず認めているケースがある。それは、申請した上で事情が変わったので簡単にやめるということについては、基本的には認めていないということをしつかりと確認

委員
事務局

した上で許可している。

結局は保護者の希望によってされているということか。

そうである。こちらで受け付けて、1度検討した上で許可している。昔が厳しかったかどうかは分からないが、保護者の方から「昔はすぐに許可してくれた。」とか「昔はもっと厳しかった。」とか色々言われる。

委員
事務局

住所を変えなければいけないとかあった。

住所は1つであるから、実際に住んでいる住んでいないがあるが、ただ、お話しするのは、校区外については良くないと思っているということである。何故かという、地域に育ててもらおうということもある。一面だけ見ると校区外は良さそうであるが、そうではなく「そこだけ見ていいのですか。」という様な話をした上で、他にも色々な話をした後で、それでもという方について許可しているので、この10人の方がどういう理由であるかということは今分からないが、教育委員会としてはその様にして決定している。

委員

今、雲雀丘小学校が原井小学校にという話の中で、先ほど、位置の関係で、校区の端に学校があるということであるが、この校区というのは複数の町でできている。それを、町ごとに、近いところの小学校が受け入れるという考え方はできるのか。例えば雲雀丘小学校区内で、長浜小学校に近い地域は長浜小学校へ編入するという様な考え方は可能か。

委員

原井町が原井小学校で、笠柄町が長浜小学校ということであるか。

委員

私は地域性が分からないので、雲雀丘小学校区が複数の町できているのであれば、町単位で近いところの小学校に編入という形は考え方としてどうか。

事務局

雲雀丘小学校の校区は原井町と笠柄町である。

委員

認識不足であった。

委員

笠柄町からいえば、原井小学校よりも長浜小学校が近い。

委員

そういう校区は原井小学校にこだわらずに、長浜小学校に行けるという考え方はできないのか。

委員

雲雀丘小学校を、地域で割って、長浜に近い人は長浜小学校にというふうな区域分けはできないか。雲雀丘小学校の生徒のほとんどが第三中学校へ行くのではないか。

委員

第二中学校である。

委員

第三中学校もいるのではないか。

委員
事務局
委員

第三中学校に行かれるのは熱田の方である。

元々長浜小学校に行かなければならない子は第三中学校である。

熱田とか笠柄は区別がしにくいエリアである。基本的に笠柄町は第二中学校のエリアになっている。笠柄でも長浜小学校に行っている子はいなかった気がする。

委員
委員

熱田から第二中学校に行く子はいた。

あそこの校区で第二中学校に行けば近いのに、第三中学校に行っている子がいる。

委員

熱田 1-3 町内でも原井小学校へ行っている方がいた。中学校が近いので、小学校から連動して上がるのに、というので言われていた。個人的にはなしと思うが、事例がある以上は難しい。それこそ今でいう紺屋町が第一中学校と第二中学校に分かれるのと同じで、昔小学校があったところと変わっていく。先ほどのことも含めた中で課題になっていくことであると思う。ここで話しても決まらないので、当然地域の方の意識調査も含めて、聞かないといけないと思うし、そういったことを色々集めた上で話をまとめていかないと、中々空論になってしまう。こういうことを聞いてもらいたいということもここで挙げさせてもらい、教育委員会から地域の方へという形にした方が良く、中々すぐにはいかないと思うので、情報収集等もしておいた方が良く、デリケートな問題であるので、統合していく上で慎重にした方が良く。

事務局

佐野小学校、後野小学校それぞれ現実には編入先は分かれたが、統合審議会では全て石見小学校という答申であった。地域の方と話していく中で、後野小学校は石見小学校へ、佐野小学校は三階小学校へという形に、審議会の答申の結果から変わってきた。地域の方の声を聞いて変わってくるので、この場合は方向性を決めていただき、その後、地域の方と話をしたときに変わることもある。

会長

今、事務局からも話があった様に、そこまで考えるべきではあるが、中々そういったところまでは難しい。雲雀丘小学校といった場合に、原井小学校に行くか、長浜小学校に行くかというのは非常に難しいところがあるが、何よりも地域の声を大事に考えていかなければならない。

今日の答申の段階においては、雲雀丘小学校を単独で建て替えるのか、あるいは廃校として原井小学校なり長浜小学校へ編入とするかということを決めて、それから、地域の声を反映しながら再度検討していくというのが順序になるのではと思う。議論は必要である

ので色々な問題点や課題を出していただきたい。

委員

雲雀丘小学校が原井小学校に移られた場合、もう1つの話で、第二中学校の建て替えをするのかどうかという話も関わってくる。そうなった場合、第二中学校をなくして、第一中学校と第三中学校に分けてしまうのかということが出てくると思う。雲雀丘小学校からすれば、第二中学校から第三中学校という考え方も出てくると思う。そういった場合、雲雀丘小学校から原井小学校に行くのではなく、長浜小学校の方が、第二中学校がなくなって第三中学校になるのであれば、長浜小学校の方が良いのではないかという意見も後に出てくるのではないか。たまたま、第二中学校の話も以前から出ているので、それを含めて話をするのであれば頭は雲雀丘小学校で、次に第二中学校につながってくるので思う。第一中学校と第二中学校からのエリアの分け方、そこから地域の分けもあると思うが、そういうことも考えていかなければいけないと思う。

事務局

冒頭言った様に、同じ小学校は同じ中学校に上がるというスタンスはもっている。今回もし、雲雀丘小学校が原井小学校に編入ということになった時には、仮に第二中学校がなくなったらの話であるが、その時には原井小学校、雲雀丘小学校そのものが、第三中学校へ行くという様な考え方をすれば同じ小学校は同じ中学校に行くということになる。それは今後距離的な問題をどうしていくかということがあるので、あまりこちらが、「こうです。」「こうしましょう。」ということとは言えないところがある。

委員

協議する中で案として挙げていただいているが、これは初めに雲雀丘小学校かもしれないが、その先をいく6校も含みながら、少しずつつなげていかないといけない話かと思う。今資料を出していただいているが、基本的には第二中学校は大分先の話になる。第二中学校は閉校せずに建て替えなり補修するという仮定の上で雲雀丘小学校の話を進めていくのか、それとも先々第二中学校がなくなるであろうということも加味しながら、この中でお話をしていかなければならないのかということである。

今、この順番で行くと、建物の老朽化によって、雲雀丘小学校と美川小学校、石見小学校が頭の3つに挙がってきている。これは元々の最初の話であったと思うが、その後に、松原小学校、第二中学校、第四中学校とつながってくるということは、小学校も含めた話になって、中学校も当然話に含めていかなければいけない。第二中学校も挙がっているため、今の段階で雲雀丘小学校が編入されるのか、

どちらか校区を分けないといけないのかというところの問題があるが、1番は雲雀丘小学校で、先々には6校含めたまとめた話をしていった方が良いのではと思う。

委員

同感である。雲雀丘小学校が今日はまな板の上に上がっているが、これは雲雀丘小学校だけではなく、各小学校の校区の問題、中学校の校区の問題、それからどこの小学校からどこの中学校へ行くのかという様な問題、それら全てを総合的に考えていかなければ難しいと思う。将来を見据えた様な構想を、教育委員会は作られるべきでないか。

事務局

教育委員会事務局の思いは全くないとは言わないが、それを審議していただくための会である。

委員

であるので色々言われても、皆さん個人の持つ情報がばらばらである。従って、判断がしにくいのではということである。

会長

貴重なご意見をいただいた。前回でも話があった様に6校に絞って、その内から1つ1つ検討中である。繰り返しになるが、小学校、これから中学校という段階的な話になるので、中々難しい。私個人から言えば、市の方向性が出ていれば考え方も変わってくる。何でもかんでも審議会ですということになると、難しい。であるが、前回までの流れを踏襲した場合には何か1つでも前に進んでいかなければならない。今回の審議会では前回も話があった様に、6校に絞って、更にその中でまた絞っていくという前提で、今皆さんから出た意見は非常に重要なことである。小学校、中学校の校区の問題、それに合わせた地元の受け入れ体制の問題、色々な問題が出てくるので、それとの兼ね合いも進めていかなければならないが、今日のところは今までの流れの中で、まずは雲雀丘小学校の問題をどうするか。廃校にして他の小学校へ編入するのか、単独で建て替えるのかということを決めていかなければならない。そういった中でどちらかが決まってくれば、次のステップで検討していく。

1時間経った。雲雀丘小学校の問題に対する2つの案について意見をまとめていきたい。

委員

2つの選択で絞っていくのであれば、雲雀丘小学校は廃校にして、転入するという方向性である。それから先はまた考えなければならない。

会長

今、委員から意見をいただいたが、廃校とするのであれば原井小学校への編入が前提という話であった。他に意見があるか。

委員

私もやはり編入が良いと思う。廃校にして、少人数よりある程度

会 長

多い人数の中で育てた方が、切磋琢磨になり子どもの教育として良い。

資料5(1)の案で賛成をいただいていたところであるが、その方向で、本日の審議会ではそういった形のまとめをさせていただいてよろしいか。

各委員
会 長

全会一致で承認

ありがとうございます。それでは雲雀丘小学校の問題については、まず雲雀丘小学校を廃校にして、原井小学校へ編入するという事で意思統一をいただいた。これで決まったということではなく、これに付随した問題は出てくると思うが、今日のところの検討についてはこれで統一させていただく。よろしく願います。

それでは、2つ目の美川小学校についてのご意見を伺いたいと思う。これは前回でも色々話があったが、建て替えの関係とあるいは第四中学校への関連も出ているが、資料5にも書いてある様に美川小学校の単独の建て替え、第四中学校の跡地への建て替え。また、廃校として長浜小学校へ編入といったことについて、2番の美川小学校について委員方一人ひとりから意見を伺いたいと思う。では、順番に願います。

委 員

これも雲雀丘小学校と同様に難しい問題である。第四中学校が老朽化し、しかも人数が少ないということで、この地区の子どもによっては部活動に関係なく第三中学校に行っている子が多いと聞く。中学校がそういった活動で子どもたちが不満であるとか、授業ができないということであれば存続は難しいと思う。特に1学年1桁のところもある。であるから、中学校の存続が危ないということになれば、そこで建て替えることになっても人数が少ないのであれば、どこかへ編入ということも考えられる。しかし、地域の人が首を縦に振られるかどうか分からない。幼稚園は地域の人が造られたということであるので、非常に熱い思いがある。従って、地域が反対すれば、建て替えるのかということになると、雲雀丘小学校にとっても色々あると思う。私は、廃校か存続か判断できない。

会 長
事務局

事務局から再度説明をお願いする。

美川小学校については、資料5にもある様に、単独建て替え、もしくは単独建て替えによって、例えば公民館であるとか小学校や中学校であるとか幼稚園も含めて、何らかの公共施設を一緒に造ることで、経費的な補助も受けることができることも考えられるという形の単独建て替え、ということで書かせてもらっている。それか、

少人数であるので廃校にして、距離的に近い長浜小学校へ統合するという考え方がある。それから、やはり地域性を考えたときに美川は小学校だけでなく、第四中学校も一緒に考えていかなければならないと考えている。第四中学校についても、単独で考えた場合には廃校として、近い第三中学校へ行く場合と、少人数であっても小学校も中学校も幼稚園も地域に残すというスタンスで単独で建て替えるという考え方、それぞれあると思うが、これは、浜田の中でも美川地区という1つの地区があるので、その辺りを踏まえた上で、少人数ということだけで判断して良いのかということも考えながらご意見いただければと思う。

委員

小中一貫校を立ち上げるとか色々考えはあるが、それは置いておく。

委員

先ほど、雲雀丘小学校の時にも個人的な考えを言わせていただいたが、小学校というのはあまり小さいとまた色々問題があると思うが、資料の中で、美川小学校は今62名で、平成36年度には59名ということで、減少はしているが、1学年10人くらいの推移を維持できる可能性が将来的にあるのであれば、小学校は建て替えて複合化、中学校は別で考えている。先ほども言った様に中学校というのは、色々なクラブ活動とか団体の活動がたくさんあるので、中学校に関してはある程度大きな規模のところが良いのかという気持ちの中で、美川小学校と第四中学校の両方がなくなると、地域がという話があったが、地域のためということではなく、小学校は新しく建て替えて、中学校は規模が小さいので致し方ないとしても、小学校は複合施設として、地域との関わりを深めつつ残していく方がベストではないかと思う。

委員

前回も話したが、美川の地域性も含めて、小中学校がなくなることによって衰退すると危惧される場所もあるが、美川地区の建て替えもあるかとは思っている。以前にも言ったが、統合するということについて、上府の話に戻るが、上府地区という地域があり、地域の方は存続してもらいたいということであった。学校を建て替える場所がないので建て替えはできなかったが、やはり残してもらいたいという思いはあった。基本的に人数的なことと、老朽化も進んでいるし、雲雀丘小学校の次に古い。鉄骨も一部含むが木造であるので、大阪北部地震ではないが、いつ何が起こるか分からないので、そうなった時に潰れる可能性があるかというのは、耐震性をきちんとされているので大丈夫であろうと思うが、そういう部分でいくと

危ないのかと感じている。

以前も言われていた小中一貫校ではないが、地域を考えるのであれば大事であるかと思う。美川幼稚園があるため、幼小中一貫校という形をとっても良いのかなとも思うが、子どもの数よりも美川地区自体の人口が減ってきていることもあるので、これはまた別の話になるが、市営住宅の若い方々が入っているところを、どんどん若い方が住みやすい様な形にして、内田地区の見直しをして、人口を増やしていこうという考えがある方もおられると聞いている。美川地区は、雲雀丘小学校と違って1つの地区となるので、幼小中一貫校が可能であればそちらの方向でも良いかと思う。次に第四中学校の問題もあるので、幼小中一貫校含めて考えても良いかと思う。ただ、それを地域の方が望んでいない、今建物も恐いし、子どもたちも通学するのが危ないと感じるという声が大きければ、第三中学校へ編入ということもある。予算的なことも考えなければならないと思う。

今のこの話が終わったあとに雲雀丘小学校を解体して、廃校するということが前提に決まった上で、予算が少しでも軽減できて、美川小学校にそちらを当てられるのであれば、建て替えの方が良いかと思う。他の学校のことを考えれば、建て替えしても良いのかな、もっと建て替えしなくてはならない学校があるのではないかなと思う。地域のことも大事であるし、半々くらいである。あつた方が良いとは思いますが、建て替える予算があるのであれば、幼小中一貫校で残してもらった方が良いのかという思いはあるが、現実的な問題で難しいのであれば、統合というか廃校にして第三中学校に編入ということも、浜田市として考えた時にはそちらの方が大事であるかと思う。

地区のことを皆さん言われていたが、個人的には残った方が子どもたちの学力だけでなく地域の学びというのがあるかと思う。国府なら、国府の中で1つにまとまってすごく良かったと思うが、1つの学校がなくなったという現実がある。そういう部分でいくとやはり古くから地区に残っている学校であるので、個人的には残ってもらいたい。安易な考えで申し訳ない。幼小中一貫校が可能であれば残したい、残ってもらいたい考えである。それ以外で考えるのであれば第三中学校に行った方が良いかと思う。小学校と中学校両方の建て替えはまず無理な話で、そうなった場合、第四中学校から第三中学校への編入かと思う。

委員

美川地区で学校がなくなるということはとても大きいことであると思うが、現実的に人数が減ってきているのも資料から分かる。小学校と中学校を一緒にするのが良いのかどうかについては、迷っているが、何か災害があった時に、避難できる場所が小学校なり大きな建物が1つあれば、地域にとっても集まれる場所となる。そういったものがなくなるのは、いけないことかと思う。中学校はやはり部活動とかで人数が多いところに魅力的なところがあったりする。幼小中一貫校という、複合的に中学校も一緒にした建物にするかどうかというのは、今迷っている。何か小学校なり建物が1つあれば、町全体の宝になる。なにか1つ拠点があれば良いと思う。

委員

地域には学校が残ってもらいたいというのがある。美川地区は人口的には少ないので、中学校は無理かもしれないが、小学校はそのまま残していただきたいというのが私の意見である。地域に学校がないというのは寂しいことである。できれば老朽化している学校は、建て替えなければならないかもしれないが、そのところは市の予算の関係もあるが、建て替えて小学校を残していただきたい。

委員

私も、今回の美川小学校についてはとても難しい問題で、意見がまとまらない。話の過程で、どこに優先順位を付けていくかということを考えて、やはり地域の交流ということはとても大事であるが、人口も段々と減少してくると思うし、高齢化も進んでくる。ただ、地域のつながりというのは大事にしていっての方が良いと、個人的には思うので、できれば幼小中一貫校か、何らかの複合施設で小学校を残すという形の方が良いのではと思う。

委員

保護者としての意見になるかもしれないが、人数は本当に少なく寂しいが、地域の方に良くしてもらい感謝している。人数が少ないからこそ、運動会も幼稚園と小学校でみんな一緒に合同でさせてもらっているし、しめ縄作りなども一緒にさせてもらっている。子どもたちがお兄さんやお姉さんと関われることをとても喜んでいるし、本当に個人的な意見になるが、老朽化もしているので建て替えをしてもらいたい。廃校ということになると寂しいと思う。

委員

建て替える方向で検討していただきたいと思う。この美川小校区と雲雀丘小校区では学校の雰囲気が違う。地域に根差した地域の学校と、そうでない、転勤族の多い雲雀丘小学校とは雰囲気も違うし、地域に学校がないと地域全体が寂れる。是非、建て替える方向で検討していただきたいと思う。

委員

先ほども他の委員が言われたが、私は実情というのは分からな

い。例えば、美川小学校の校区が決まっているが、実際にどこの地区から子どもが来て、1番遠い子がどこの地区か全く分からない。でも、おそらく、私のいる弥栄の状況から言えば、周辺から通う子どもは減っていると思う。段々と中心に近いところから通う子どもが増えている。以前より通学の問題は減っていると思うが、実情は分からない。美川地区の思いであるとか、歴史というかそういうものがある様なので一概には言えないが、一方で、一時期、那賀郡がやはり小学校を廃校にしてほしくない、小学校を残してほしいということで、小学校をあちこち改築した。その改築をした小学校が現在廃校になって、立派な建物が残っている状況もある。もし、残すのであればそういうことも踏まえて、複合施設みたいな形で検討される方が良いのかと私は思う。ただ、学校だけの建物にしていずれ子どもがどうなるかわからないが、建物だけが残るとするのは寂しい気がする。

委員

私の個人の意見であるが、今委員方から話があった様に、美川小学校について新聞など色々なものを見る中で、本当に地域と子どもの関わりが非常に大きな地域であると感じている。それだけ地域性のある学校運営をされていたと思う。児童数は雲雀丘小学校とそう大差はない。そういった地域の特色ある色々な学校運営をされているという点を踏まえて、やはり、建て替えをされた方が良い。もしくはそういった複合施設を検討していくべきかと思う。

先ほど他の委員からもあった様に、やはり、小中一貫校、あるいは、そういった方向にも視野を広げてやっていかないと中々地域の理解は得られないかという気がする。私も個人的にはやはり、美川小学校は建て替えと感じているところである。

会長

それぞれ委員方から考えなりお気持ちをいただいた。全体的に見れば、美川小学校の場合は老朽化による建て替えをして残すべき、あるいは複合施設として残すべきであるという声が強いのではと思っているが、それらを踏まえて全体の協議に移りたいと思うので、お願いします。

委員

統合することによって国から補助が、小学校同士の統合だったら出るのかもしれないが、小中学校で統合した場合、補助金は出ないのか。そういった事例はあるか。

事務局
委員
事務局

美川小学校と第四中学校でということであるか。

そうである。

美川小学校と第四中学校でも、小中一貫校をどう捉えるかに依る

が、そのまま小学校6年と中学校3年で建物が共有化という形であれば、それぞれの小学校と中学校は残っていくという感じであり、統合していない形になるので、おそらく難しいかと思う。また、例えば、校庭が共有できるとかで経費は一部落ちるが、校長先生もそれぞれおられるし、職員室もそれぞれできたり、それぞれいるものはいることとなる。

委員 先ほど私が小中一貫校と言ったが、子どもの発達段階から言えば、6、3というのはあまり良くないと思う。むしろ小学校5年生くらいから中学生でも良い。そうすると、小中一貫校で独自のカリキュラムを作ってその学校でやってみるとかいう、先進的な取組を浜田市がされたらそういう方法もあるのではと思う。松江市も八束でやっている。

会長 事務局で参考にさせていただきたい。

委員 そうすると中学生が非常に少ないと言われるが、小学校と一緒に一貫校になるわけであるから、お互いに同じ学校の人間になる。

委員 先ほど、委員が那賀郡の事例を挙げられた様に、仮に美川小学校が建て替えられて、何年か経って廃校になった場合に、廃校になった時のための建物を造る、複合施設にするべきだという意見もあるかもしれない。そうなった場合に、複合施設というのは公民館とかといったものを併用してということであるか。

委員 そうである。

委員 例えの話であるが、美川公民館と併用した場合に何か補助はあるのか。補助でなくても多少でも経費が軽減できる様な、どこかの事例があればお聞きしたい。

事務局 公民館については分からないが、新しい学校の中に放課後児童クラブを併設しているものが2校ある。それについては放課後児童クラブの部分は、福祉サイドからの補助金を受けられるということはある。であるから、複合する施設にもよると思うが、それによって補助金を受けられる、受けられないというのはあるだろうと思う。細かいところは分からない。

委員 公民館は補助の部分があるということか。

事務局 公民館単独の補助はない。

委員 何か事業をすることによって補助金とかが出る。公民館課題解決に係る事業等、連動してやれば小学校の方にもつけられるのではないか。

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 公民館の活動に対して市から補助金なり委託するものはあるが、直接学校に行くという認識はない。ただ、公民館活動の中で学校も巻き込んで一緒にやるという意味では補助金なり委託料に使われるパターンが当然ある。 |
| 委員 | 承知した。 |
| 委員 | 補助金は単独建て替えの場合出るか。 |
| 事務局 | 単独で建て替える場合、補助金はない。全部市のお金である。資料5の美川小学校の(1)単独建て替えの場合でいくと、18億円を市が払う。特に補助はない。 |
| 委員 | 周辺の幼稚園の保護者会の方が来ておられるが、幼稚園の建物は古いのか、それとも新しいか。 |
| 委員 | 何年経っているか分からないが、地域の方が建てられたと聞いている。 |
| 委員 | 私は職場が保育所である。最近特に言われているのが幼稚園、保育園から小学校に移行するときの連携という様なことがすごく重要視されている。幼稚園や保育園の近隣の施設がどれくらいの建物であるかは分からないが、小学校と複合化ということになると、先ほど公民館という話も出たが、地域の活動施設もとても良いと思うし、保育園や幼稚園との複合施設も魅力があるのではという気がする。それで、幼稚園、保育園からスムーズに小学校に連携を取りながら行くという形もできるのではという気持ちの中で、先ほども言われた様に、地域とのつながりが非常に深いということで、それが、子どもたちの教育にも反映してくる様に、地域が寂れるということももちろんあるが、基本的な目線は子どもに向けて、その中で子どもにどういうことがベストであるかということを考えてときに、スムーズな流れができること。地域とのつながりも強くなるという様なことであれば、その後の地域とのつながり、それから幼稚園、保育園とのつながりということを考えて、小学校の建て替えをされたら良いという気持ちがしている。 |
| 委員 | 地域の中の子どもを地域で育てたいというのが基本である。ただ、幼稚園は区域が決まっていない。色々なところから来られる。 |
| 委員 | 美川幼稚園も美川地区と他と半々か、美川地区の方が少ないかもしれない。 |
| 委員 | 保育園の考え方でいうと話が中々前に進んでいないが、認定こども園という話も考えられる。その地域の保育園がどういう思いでおられるか分からないので、軽々しく言えないが、幼稚園部分と保 |

育園部分とが合体している施設というか、形態とまらないかという気持ちもしている。それは幼稚園の長の方も保育園の長の方もおられるので、個人的な意見を押し付けるわけでも何でもないが、そういうことも考えの1つとして面白いのでは。

委員 美川幼稚園は、美川地区だけでなくほかの地区からも子どもが来ている。小学校はそのまま美川小学校ということではない。

委員 そうである。自分の校区の学校に入る。

委員 保育園もそうである。保育園も、小学校みたいにこの校区はこの保育園ということではない。

委員 そうであるが、大体、保育園はその地域の子どもたちが通っている。美川幼稚園は他の地区からも来ているから、全員が美川小学校へ行くわけではない。そこのところを考えなくてはならない。連携としてはその地域に学校を造ってあげる方が良いと思う。

委員 幼稚園と小学校を一緒にするという考えは良いことである。

それを美川に当てはめるということではないが、そういう考えがあるのは初めて聞いた。

会長 色々皆さんからもご意見いただいた。全国的に統合審議会によって学校の統廃合が進められている。浜田市もこういった学校統合計画審議会というのを設けられてやっているわけで、何かこういった時期に浜田市が先頭を切って新しい改革に取り組んでいく姿勢を出してほしいと思う。そうしないと、今までの流れの中での統廃合では魅力がないし、もう少し新しい取組が重要でないかと思う。繰り返すようではあるが先ほど他の委員からお話があった様に、やはり今後の予定を含めた案を検討していくということもあるし、もう1つは複合施設を検討するという項目が入っているが、具体的にどの様な複合施設にするかということも少し中身を付け加えていただきたいと思う。いずれにしても、美川小学校の関係についての協議をいただいたところであるが、最初の雲雀丘小学校に続いて、美川小学校も資料5の(1)、(2)案のどちらかを選択していかなければならない。美川小学校についてはもっと検討していかなければならない。何よりも地元の意見が大事である。そういったことが前提にあるわけであるが、今日の美川小学校の単独で建て替えならば複合施設等も検討しながら、また、廃校にして長浜小学校に通う、あるいは第四中学校との関わり、そういった点等を踏まえて、皆様方の意見を集約する中で、やはり美川小学校は複合施設も検討しながら、取り組んでいくという方向ではないかと感じ取ったが、皆様いか

各委員
会 長

がか。

全会一致で承認

ありがとうございます。今日のところでは美川小学校については単独で建て替えをして、複合施設等も検討していくということで意思統一をさせていただきます。

4 その他
会 長

まだ、石見小学校、松原小学校、中学校とあるが、とても一遍にはできないので、また皆さんにお時間をいただいて色々な資料を検討いただいたり、資料をいただいて、次回もまた引き続き検討協議をしたいと思う。そういうことで、今日は2校についての協議をいただいた。残りの学校については次回協議をしたいと思うので、今回の会はこれで終わりにしたいと思うが、事務局から何かあるか。

事務局

慎重なご審議ありがとうございました。2点ほど連絡事項がある。

1点目は前回第1回の時の議事録を皆様にお配りしたが、修正等があればご連絡いただきたいということをお伝えしていたが、今のところ、変更はない。もし今日のところで何かあれば、この後でもご連絡いただければと思う。この時点で、最後の確定版の議事録にしたいと思うのでよろしく願いしたい。

2点目は、次回の審議会の日程である。次回8月8日、9日、10日のところである程度限定で申し訳ないが、この3日間の15時、もしくは17時、18時のところで、時間を決めさせていただければと思っている。今日の段階で書ける方は書いていただければと思う。今書かれない方については、締め切りを19日にさせてもらっているので、また後日ご連絡いただきたいと思うのでよろしく願いしたい。

会 長

それでは夜遅くまでご審議いただきありがとうございます。次回の日程も調整いただける様願います。

今日は大変遅くまでありがとうございました。どうぞ気を付けてお帰りください。